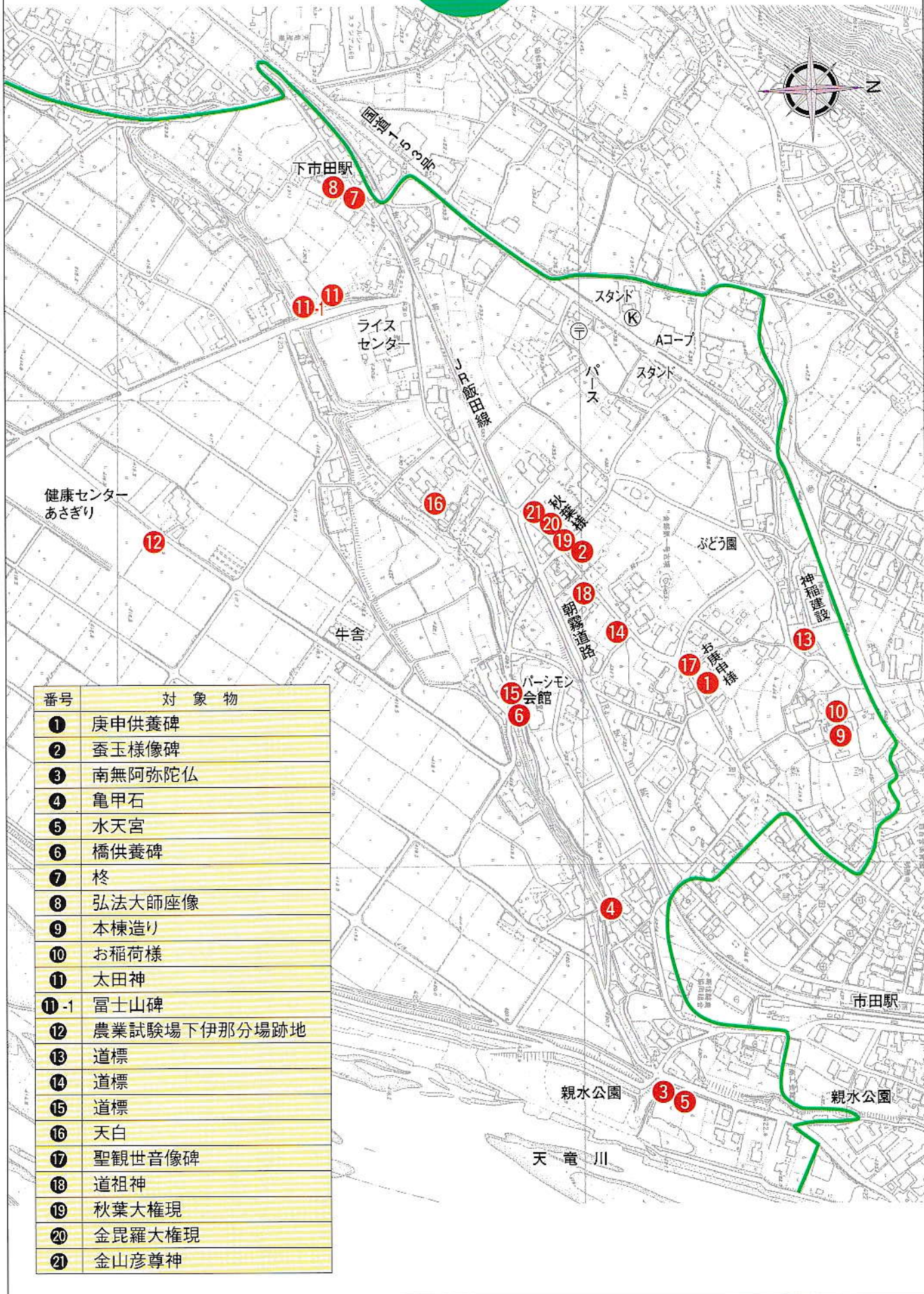


2区



番号	対象物
①	庚申供養碑
②	蚕玉様像碑
③	南無阿弥陀仏
④	亀甲石
⑤	水天宮
⑥	橋供養碑
⑦	柁
⑧	弘法大師座像
⑨	本棟造り
⑩	お稻荷様
⑪	太田神
⑪-1	富士山碑
⑫	農業試験場下伊那分場跡地
⑬	道標
⑭	道標
⑮	道標
⑯	天白
⑰	聖観世音像碑
⑱	道祖神
⑲	秋葉大権現
⑳	金毘羅大権現
㉑	金山彦尊神

① 庚申供養碑

「区」

元禄9年(1696)9月7日建立
 「所在地」大沢操氏宅裏



庚申供養碑



庚申供養碑の遠景

庚申というのは、干支の庚と申の重なる日のことで、60日に1回まわって来る。中国から来た信仰で、この夜眠っている間に、その人の体内に居るといふ、三戸さんどと言ふ虫がいて、この虫が飛び出し、その人の悪事を天帝に告げるといふ。

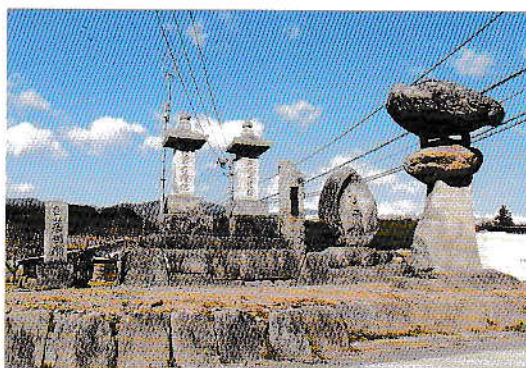
そのために信者が集まって「青面金剛」を祭って寝ずに日の出を待つ、これを「お日待ち」といふ、このような庚申信仰が盛んになると、お日待ちだけでなく、「庚申供養塔」の建立にまで発展し、各所に塔が立ち、町内にはこの信仰に關係ある石造物は実に1300有餘存在するようである。その中でもこの塔は下部に猿が三匹刻まれ、元禄9年(1696)の建立で町の中では古いといわれている。

② 蠶玉様 浮き彫り像碑

「区」

文化4年(1807)6月建立
 「所在地」上原修氏宅前

蚕玉様碑には、文字碑と浮き彫り像碑の二種類あるが、此処の碑は郡下最大と言われ、浮き彫り像碑である。右手に桑の枝を持ち、左手に宝珠を持つ機織りの守護神である。同時に蚕の供養塔として養蚕に携わる農家によって建立されたものである。神様の名前は、蚕玉様・蚕霊塔・絹笠大明神等二十二種類以上がある。また祀り人により異なり、神像系と仏像系の二種類がある。



蚕玉様碑の遠景



蚕玉様碑

③ 南無阿弥陀佛 なむあみだぶつ

嘉永7年(安政1年)甲寅年(1854)仲秋吉日建
 【所在地】下市田河原旧惣兵衛堤防北端

宝暦3年3月(1753年)中村惣兵衛によって完成した。大川除けは、惣兵衛堤防と名付けられ、以来下市田河原等を天竜の出水被害から護ってきた。そのため、中村惣兵衛築堤完成後100年を記念し、併せて惣兵衛没後90年となるため、惣兵衛の偉業を讃えると同時に、惣兵衛の供養を兼ねて建立された。建立場所の堤防は三六災害により流失したが、幸いにも堤防の一部と、供養碑は残されたが、供養碑は西方へ10m程移されている。



南無阿弥陀佛



碑のある場所の遠景

④ 亀甲石 きっこういし

【所在地】下市田河原 中村實氏宅の下段南

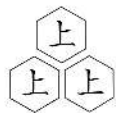


亀甲石

所謂、下の亀甲石と言われている。中村惣兵衛は堤防を築くために土地の境界を三ヶ所定め、それをもって測量基点とした。

此処の亀甲石は三ヶ所の測量基点のうちの一つで、「下の亀甲石」と言われている。石の表面には、亀の甲羅模様の中に「上」の字が深彫りされている。

この甲羅模様は、時の飯田城主堀候の家紋である三ツ盛一重亀甲に因んだうちの一つの中に「上」の字を刻印したものである。



三ツ盛一重亀甲



亀甲石のある遠景

5 水天宮すい てん ぐう 二区

嘉永3年(1850)建立
 【所在地】松島恒男氏宅下

水天宮 (総本宮、福岡県久留米市瀬下町鎮座)

御祭神は、

天御中主大神、安徳天皇、高倉平中宮、建礼門院(二

位の尼)の四神
 由来は、

寿永4年(1185)源平の壇ノ浦の戦いで平家、利あらずと見るや、建礼門院(二位の尼)は八才の安徳天皇を抱かれて入水し共に命を落とされた。このご両人を、高倉平中宮に仕えていた女官が伊勢の方まで逃れ、水天宮として祀ったと伝えられている。

この水天宮碑は惣兵衛堤防が完成した百年後の嘉永3年(1850)に建立されたが、昭和36年の大水害で堤防が決壊した時に、本流に流され見失っていたが、平成5年に工事中水中より発見され、平成8年に現在地に再建されたものである。
 (五区にも水天宮がある)



水天宮



水天宮の遠景

水天宮は京都の仁和寺と深い関係があり、「宮」は皇室とも関係し貴重な碑であるが、由緒については省略する。

6 橋供養碑はし ぐやう び 二区

宝暦13年(1763)建立
 【所在地】北原洲平氏墓地内(自宅裏)



橋供養碑

橋供養碑が建立されている下あたりまで天の中川(天竜川)が流れていたり、時には淵を造っていたりしていた。この辺りに渡船場が設けられていて、対岸の伴野とを舟又は水量の少ない季節には土橋・木橋が設けられ、双方の村人や旅人の往来に供されていた。

このように橋は人馬の往来や荷物の運搬には欠かせないので、安全に往来ができるよう橋の霊に祈願したり、また不幸にして流失した橋の供養をも兼ねたりしていた。



橋供養碑のある遠景

7 柎

二区

1400年代の宝永末期植樹(推定)
【所在地】福島照義氏宅前

樹種「柎」(モクセイ科)、所在地下市田1401番地、所有者上沼清一、樹高約7m、幹周囲約7.7mであったが、今はその姿はない。

柎は、暖地に育つ常緑樹で、若木の葉は鋸のようなギザギザがあるが、上部の古い枝の葉には無い。葉はツヤがあり大変厚い。木質は固いため、将棋の駒、算盤玉、印材などの材に使用されている。

この柎の古木は県下でも珍しく、昭和37年7月12日に県天然記念樹に指定。樹齢600歳と記されている。この場所に柎の古木がある由縁について概略を記すと次のようである。

室町時代・明徳5年(1399)但馬の国(兵庫県)豊岡城主細川清家の子清俊が今の地に落ち着き、その場所が沼地であったため「上沼」と名乗り、松岡から拝領した領有地の堺として、羽根・武陵地・流田の三カ所に柎を植えたが、うち二本は枯死又はひこばえによって今に至っている。

現在は、残念ながら主幹は枯れ、その根本より新しい枝の繁茂が始まっている。何れにしても福島照義氏の理解ある協力あつての事である。



柎の大木



柎遠景

8 弘法大師座像

二区

宝暦13年(1763)建立

【所在地】福島幸雄氏宅



弘法大師座像

大師座像は台座の高さ約6cm、大師座像約30cm余の高さで、お厨子に納められている。

大師は仏の尊称であると同時に、朝廷から高僧に賜る敬称で、弘法大師を除き23人が居られる。中でも大師というと、真言宗開祖の弘法大師(空海)を指す場合が多く、その徳を慕う信者で大師講をつくり、心身を磨き仏教「真言宗」の道に励んだ。空海は香川県(讃岐)の出身で、平安初期の立派な高僧である。遣唐使として唐の長安に渡り、帰国後に高野山に金剛峰寺を建て、京都の東寺と共に真言仏教の道場とし真言密教の布教につとめた。

福島幸雄氏宅に所蔵されている理由は、宅地東側段丘の突端に薬師堂があり、そこにお薬師様が文政2年以前(1819以前)に祀られ、更に弘法大師像も安置されていたが、天竜川氾濫の折りに崩落、流失の危険があったので、現在の宅地南側の屋敷続きに移転。明治初年(1870頃)排仏毀釈の流れの中で、この薬師堂も取り壊される羽目になり、堂内のお薬師様と弘法大師座像は長年にわたる堂守りの庵主様の面倒を見ていた福島氏に、そして同じ場所に祀ってあった十二神将は安養寺の十王堂にと、それぞれ納められたと言ひ伝えられている。

9 本棟造り ほんむねづく

二区

安政2年(1855)卯9月吉日建築
 【所在地】松島美智子氏宅



本棟造の全景

潜り戸くぐりが残り勾配も緩やかで、平面は正方形に近く、本棟切妻(妻入)造りで、大屋根が典型的なものである。

間口7間、奥行き7.5間、建ち18尺、勾配3寸2分、流れ寸法25尺である。鬼瓦は手造りで、横6尺、高さ約3尺の大きな物が残っている。この鬼瓦に築造年が刻印されている。

下市田にも本棟造りの民家が各所に見られるが、改造などにより潜り戸が残っている民家は少ないと思われる。

〔参考〕

本棟造りの民家は、松本を中心として北は大町辺り、南は飯田付近まで広がっており、他の地方には全く見られない独特の姿である。

吉田に国の重要文化財に指定されている竹ノ内家の本棟造りがある。



10 稲荷大明神 いなり だいみょうじん

二区

文久4年(1864)甲子年2月23日
 【所在地】松島美智子氏宅

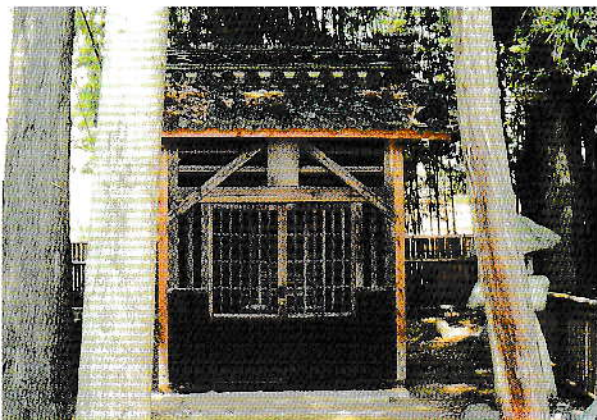
京都の稲荷山に鎮座する伏見稲荷大明神の「倉稲魂神」ウカノミタマを祭神とする。

五穀を司る神で中世以降は、農耕の守護神としてでなく、商工の神として信仰が拡大して、有名となった豊川稲荷神社がある。江戸では専ら町内安全とされ、各地に分社を持ち、信仰を拡大してきた。稲荷は狐の異名で稲荷の神の使いとされ、狐は稲荷と切り離せない関係にある。狐を神とする思想は中国から伝えられ、日本では奈良時代(710-714)からこの思想があつたと言われている。

この稲荷は伏見稲荷で、松島家四代前の伊三郎氏が、文久4年(1864)に、戸田吉左衛門家重、工匠荒井竹四郎信広の二人によって建立されたと記されている。

〔追記〕

稲荷は稲生いなりの意で田の神で穀物を主宰する神とされ、寺や家庭の守護神としてもまつられていることがある。



稲荷大明神

⑪ 富士山碑 (浅間)

二区

安政6年(1859)3月
 【所在地】相ノ澤 西村東一郎氏宅裏の竹藪



富士山碑

一口に言うとう富士山を霊山として崇め、木花咲邪姫を祀り、山伏の姿で修業する山岳信仰である。

江戸時代の初期、富士山で荒行を行った修験者が教義を打ち立てた。この教義をもって教徒を組織化し、江戸中期に入ると江戸を中心に信越、東海、東北地方までその信仰は広がっていた。又は中道巡り等が成就した記念として富士山を模した富士塚や、記念碑を建てる習慣があった。

また富士山を神格化したものとしては、「仙元大菩薩」「浅間大神」「参明藤開山」などを刻んだ碑を建てた。こうした事から推測するとこの附近に信仰者、或いは富士講があり、参拝記念として碑を建てたものと考えられる。
 ※文政(1818~1836)のころ、飯田の松下千代が熱心な信者となり、伊那谷に布教したとも伝えられる。

太田神碑

【所在地】相ノ澤 西村東一郎氏宅裏の竹藪内



庚申信仰碑と同じ意味を持つ文字碑である。



西村氏宅裏の竹藪

⑫ 長野県農業試験場 下伊那分場跡地碑

二区

昭和59年(1984)10月建立
 【所在地】坂牧久男氏宅前

跡地には当時の門柱(石造り)が残っている。なお、碑の裏面には概要が次のように書かれている。

当分場は大正15年4月に創設された。以来幾多の変遷を経て、昭和50年8月角田原に園芸なども含め、関係施設を移転、現在に至っている。此処に関係者の協力を得て、由緒ある実験台を用いて銘を刻み、創立当時の門柱と共にこれを建立する。昭和59年(1984)10月、高森、南信農業試験場60周年、記念事業実行委員会とある。

なお、跡地には社協運営の「健康センター」が建立され、町民の健康増進に広く役立っている。



試験場跡地に建つ碑



試験場跡地の遠景

13 道みち

標しるべ

二二区

【所在地】松島修三氏宅前

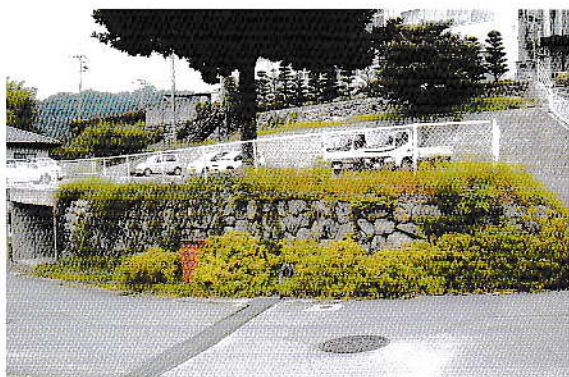


西方に向いているべきものが工事によって東に向けられてしまった。位置も西側へ移動している。

神稲建設駐車場の石垣に東に向いて建てられている。向かって左に「左あきは道」、右に天明5（1785）、更に右側面に「大沢」と刻まれている。

道標に固有名詞があるのは珍しい。下に四軒の大沢姓があるので、その中の誰かが秋葉参りの人たちの便を図って建てたものと思われる。

この道標は明らかに向きが逆になっている。出原方面から旅人のための案内であるので、道路下に西向きに建てられていたものが、道路工事によって現在の位置に移されている。



道標の周り

14 道みち

標しるべ

二二区

【所在地】大澤順二氏宅前



道標の遠景

秋葉参詣と飯田への案内である。古くから建てられていた馬頭観音を利用し、左に「左あきは道」、右には「右い、た道」と刻まれている。

この道標は「田村線」沿いにあり、出原方面からの旅人に対する道案内である。左の里道（秋葉道）を下ると渡船場（北原州平氏宅北）に着く。また、田村線沿いに西南に行けば飯田へと向かう。高さ約78cm、幅約61cmの立派なものである。



15 道みち

標しるべ

二区

【所在地】北原洲平氏宅上

所謂、旅人の道案内のために建てられたものである。

この道標（道しるべ）は、河東から善光寺参りに行く旅人の道案内として建てられたもので、その向きは東に向いて、「右せんこう志道」と刻まれ、その左には「馬頭観音」と刻まれている。

この道は古来秋葉神社参り・善光寺参りの人達が多く行き交う道で、秋葉道と名付けられていた。この道標は西に向いているが、道路工事によって位置も変り、東向きから西向きに変えられている。なお、下附近には、対岸の伴野「弁財天下渡し」に向かって船渡しがあった。



道標

東に向いているべきものが、工事によって西に向けられてしまった。位置も道路の西側より東側に移動している。



道標の遠景

16 天てん

白ぱく

二区

【所在地】市岡愛介氏宅地内

市岡家に氏神と併祀されている天白は、かつては出砂原の割烹「美佐登」の敷地の北側辺りにあったと言う。

出砂原の開発（道路・野球場などの新設）により、その姿を失うことの羽目となったが、永らく此の神を祀り世話をした市岡家に、地域に信望厚く、尚かつ地域の重責を担っていた福島庄太郎さんより依頼があり、「是非とも氏神に合祀し、今後とも末永く守り伝えていってもらいたい」と依頼され、現在に至っている。此の天白は惣兵衛堤防築堤の基点の一つともなっていた。（詳細記録は市岡氏と19年度役員が保管）。



天白

17 聖観世音菩薩像碑

二区

宝永8年(1711)建立

〔所在地〕大沢 操氏宅「お庚申様」境内内

観世音菩薩は阿弥陀如来の左に立つ脇侍である。地藏菩薩と並んで庶民に最も親しまれた菩薩である。

観世音は世の人がその名を唱える音声を観じて、その人の持っている苦しみや悩みを解決して下さる有難い仏様であると信じられていた。

信者が集まって講を作り、各所に信者による堂を造り信仰を深めるが、各所に造られる観音堂をお互いに参拝しようということから三十三観音巡拝が始まることになる。右手に持っているのは蓮の花である。

下市田間ヶ沢の清水庵(観音堂)は、伊那西国の三十三番所のうち、二十六番札所である。



聖観世音菩薩像



遠景

18 道祖神

二区

〔所在地〕福島家氏神境内内

道祖神は中国では「道路神」と言い、中国から入った信仰である。

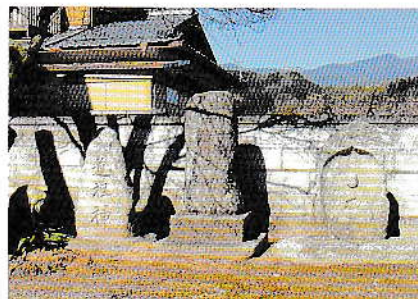
日本では「塞の神」として、悪の人って来るのを防ぐと信じられ、道端に建て悪霊の侵入を防いだり、道路や旅人の安全を守ったりするとされてきた。また、良縁、子孫繁栄の神ともされてきた。

なお、日本では古くから、賽の河原の神として幼くして亡くなった霊の守護神として、冥土で彷徨う幼子の霊を慰め救って下さるとして、信仰されていたようである。

道祖神には、文字を刻んだ碑と、男女双体の道祖神像を刻んだものがあり、安曇地方には多く見られるが、高森には大島山に一基ある。



道祖神



19 金毘羅大権現碑 二区



金毘羅大権現碑

天保13年(1842)建立
【所在地】上原 修氏宅前「秋葉様境内」内

金毘羅大権現そのものについては、四区の説明文参照。
この塔は秋葉塔建立後に、秋葉塔の南隣りに建立された。

20 秋葉大権現碑 二区



秋葉大権現碑

享和3年(1803)3月吉日 建立
【所在地】上原 修氏宅前「秋葉様境内」内

※秋葉大権現そのものについては二区の説明文参照。
1803年に建立したが、北隣の蚕玉様と見比べた時、その碑の余りの見劣りを感じた地区の人たちは、石積みが高くし均衡を保った。けれども、いま見比べても寛大さから言えばやはり蚕玉様には勝てない。

秋葉様境内



21 金山彦尊神碑 二区



金山彦尊神碑

嘉永元年(1848)9月建立
【所在地】上原 修氏宅前「秋葉様境内」内

(倉澤寛子氏所有)

鉄製品を造る職人を保護し、商売の繁盛をもたらす神様。金山彦神は金山姫神と共に金山を協同で経営して荒山(精錬しない金属)から剣、鏡(鉄製)その他金属器を鑄造する技工を守護とする神である。そのために、同じような職に就いている人々(鍛冶職)の信仰が特に厚い神である。